

## 第1章 調査の概要

### 1 調査目的

本市のヤングケアラー支援の現状としては、関係機関からの相談件数が少なく、支援ケース数も横ばいです。また、国からは、支援対象を把握することを目的としたヤングケアラーの実態調査を定期的を実施することの重要性が示されています。そのため、支援の必要性の高い潜在的なヤングケアラーを早期に発見し、早期の支援に繋げることを目的として本調査を実施しました。

### 2 調査対象

いわき市内の全小学校5年生・6年生の児童 5,281人

### 3 回答方法

各学校を通じて保護者向けの調査依頼文を配布した後、児童本人が学校配布のタブレットからWebアンケートフォームにアクセスし、学校名および氏名を記入して回答

### 4 調査時期

令和7年9月1日（月）～9月12日（金）

### 5 回収結果

対象	在籍数	回収数	回答率
5年生	2,630人	2,277人	86.6%
6年生	2,651人	2,189人	82.6%
空白等	・	20人	・
合計	5,281人	4,486人	84.9%

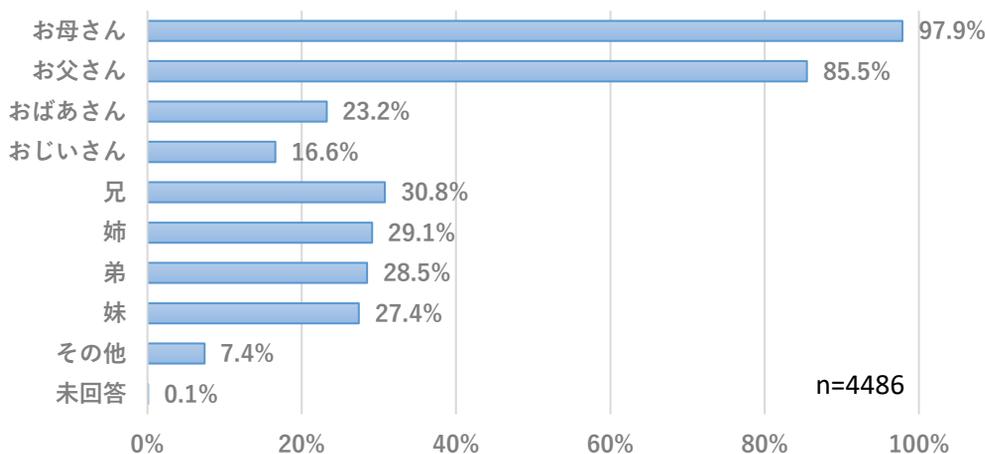
### 6 結果の見方

- 各グラフ右下の「n」は（number of cases）のことで回答者総数を表します。
- 比率(%)はすべて調査数を基数として算出し、小数第2位で四捨五入しているため表示は小数第1位までの数字になっています。そのため比率の合計が100%を上下する場合があります。回答者が2つ以上の回答を選択できる質問（複数回答）も同様に算出しているため、回答比率の合計が100%を超える場合があります。

## 第2章 調査結果

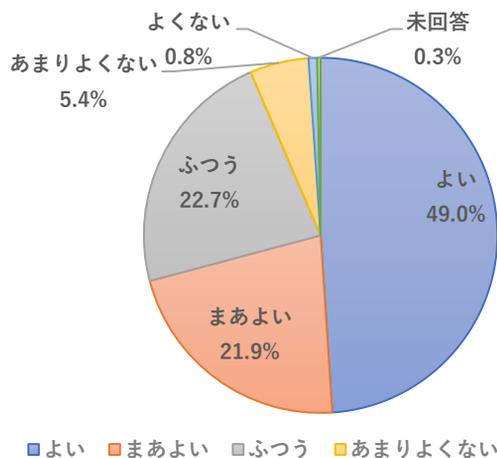
※ 学校名、学年、組、出席番号、氏名 また、最後の設問である自由記述の回答は省略いたします。

### 1 いっしょに住んでいるのはだれですか。（いくつでも）



▶ 回答者の同居家族は「お母さん」が一番多く、ほぼ100%に近い。次に「お父さん」が85.5%と高い数字で、きょうだいは複合するケースもあるが、兄・姉・弟・妹とも約30%となっている。

## 2 あなたの健康状態（けんこうじょうたい）について教えてください。（ひとつだけ）



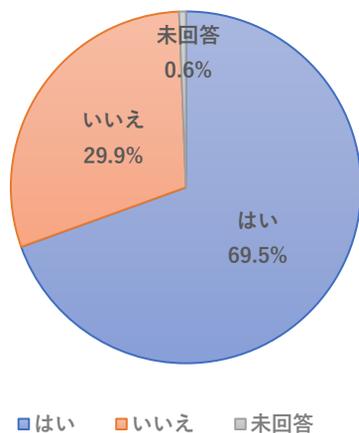
項目	回答数
よい	2196
まあよい	983
ふつう	1017
あまりよくない	241
よくない	35
未回答	14

n=4486

■よい ■まあよい ■ふつう ■あまりよくない ■よくない ■未回答

▶健康状態については、約半数の児童が「よい」と回答し、比率が一番高くなっている。「よくない」「あまりよくない」を併せた『よくない』は6.2%と1割未満であった。

## 3 放課後や休みの日にじゅくや習いごと、スポーツなどはしていますか（ひとつだけ）



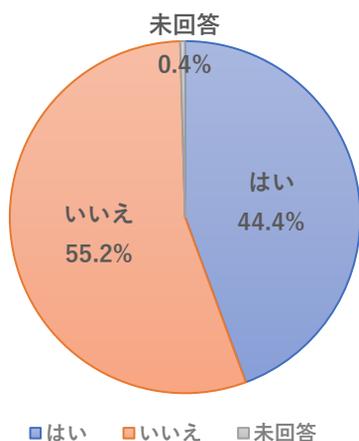
項目	回答数
はい	3118
いいえ	1340
未回答	28

n=4486

■はい ■いいえ ■未回答

▶学習塾やピアノ等の習い事、スポーツなど放課後や休日に活動している児童は約7割となっており、5・6年生児童10人中約7名の児童が習い事等で活動している。

## 4 “ヤングケアラー”という言葉を知ったことがありますか。（ひとつだけ）



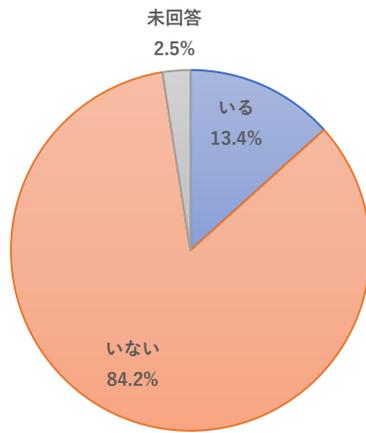
項目	回答数
はい	1990
いいえ	2476
未回答	20

n=4486

■はい ■いいえ ■未回答

▶「ヤングケアラーという言葉を知ったことがある」という設問で「はい」と回答した児童は44.4%で「いいえ」と答えた児童より、約10%ほど少なくなっている。

## 5 家族の中に、あなたがお世話をしている人はいますか。(ひとつだけ)



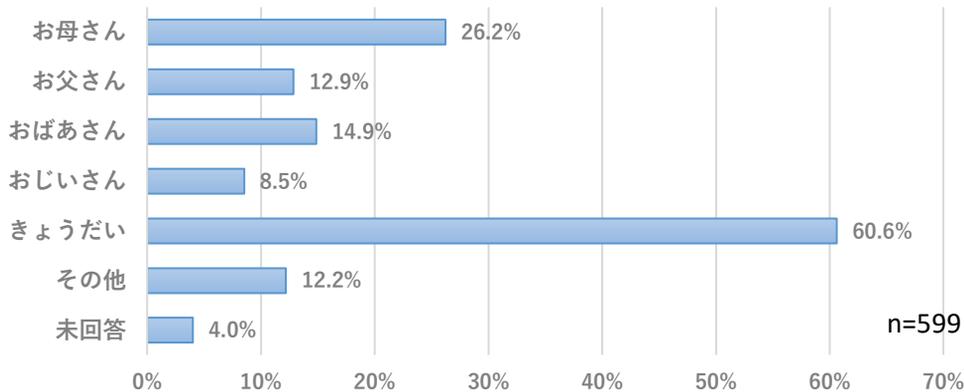
項目	回答数
いる	599
いない	3775
未回答	112

n=4486

■いる ■いない ■未回答

▶令和5年2月に福島県子ども未来局児童家庭課が公表した「小学5～6年生でお世話をしている家族の有無」では8.0%であったことと比較し、いわき市では13.4%と5ポイント以上多くなっている。

## 6 だれのお世話をしていますか。(いくつでも)

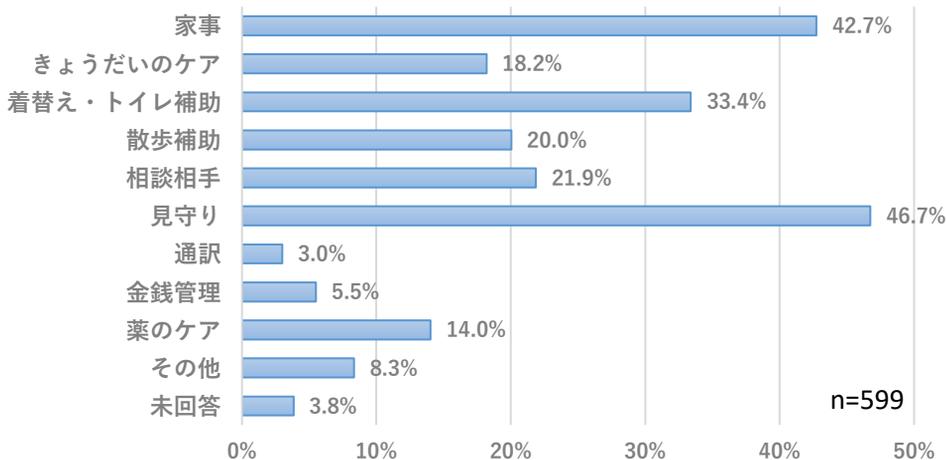


項目	回答数
お母さん	157
お父さん	77
おばあさん	89
おじいさん	51
きょうだい	363
その他	73
未回答	24

n=599

▶設問5で「家族の中にお世話をしている人がいる」と回答した599名のうち、半数以上が「きょうだいのお世話をしている」と回答している。その他では「おいっ子」「いとこ」「ひいおばあさん」等の回答もみられた。

## 7 どのようなお世話をしていますか(いくつでも)

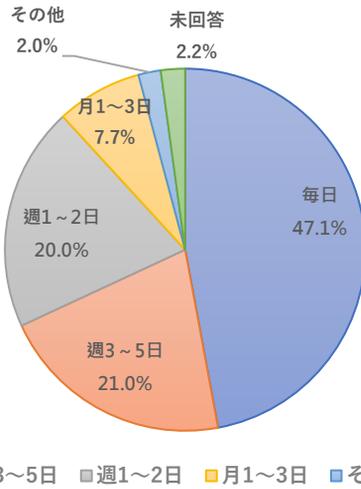


項目	回答数
家事	256
きょうだいのケア	109
着替え・トイレ補助	200
散歩補助	120
相談相手	131
見守り	280
通訳	18
金銭管理	33
薬のケア	84
その他	50
未回答	23

n=599

▶お世話の内容としては「見守り」「家事」「着替え・トイレ補助」の3つが3割を超えている。その中でも「見守り」は約50%と高い水準になっている。その他では「お風呂の準備」「犬のしつけ」等の回答があった。

## 8 どのくらいお世話をしていますか。(ひとつだけ)



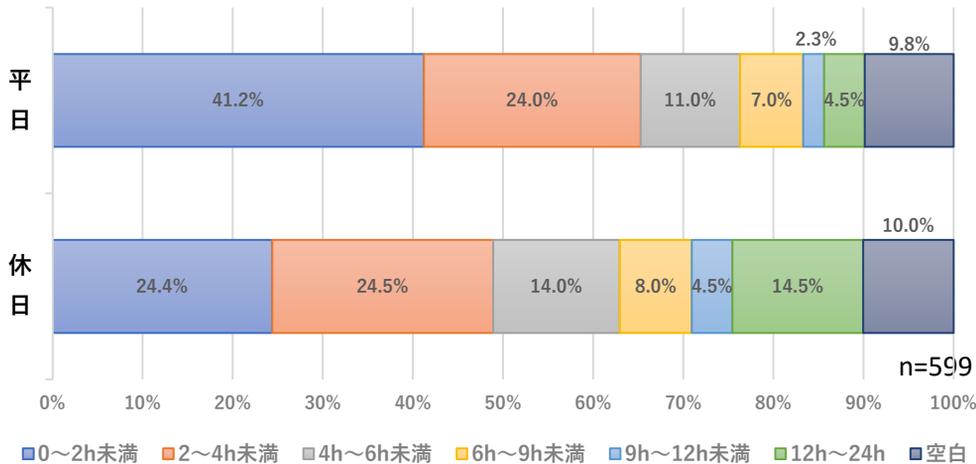
項目	回答数
毎日	282
週3~5日	126
週1~2日	120
月1~3日	46
その他	12
未回答	13

n=599

▶「毎日お世話している」と回答した児童は約5割、「一週間のうち3~5日」と答えた児童は約2割であり、その二つを合わせるとほぼ7割となっている。その他では「たまに」「母がいないとき」「月に2、3回」等の回答があった。

## 9-① 学校の日、一日何時間くらいお世話をしていますか。

### ② 休みの日に、一日何時間くらいお世話をしていますか。

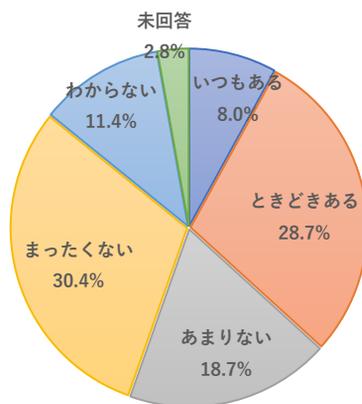


時間	平日	休日
0~2h未満	247	146
2~4h未満	144	147
4h~6h未満	66	84
6h~9h未満	42	48
9h~12h未満	14	27
12h~24h	27	87
空白	59	60

n=599

▶お世話している時間が「2時間未満」と回答した児童は、平日41.2%、休日24.4%なのに対し、「6時間以上お世話している児童」は、平日13.8%、休日27.0%であった。

## 10 お世話をしている「つらい」と感じるときはありますか。(ひとつだけ)

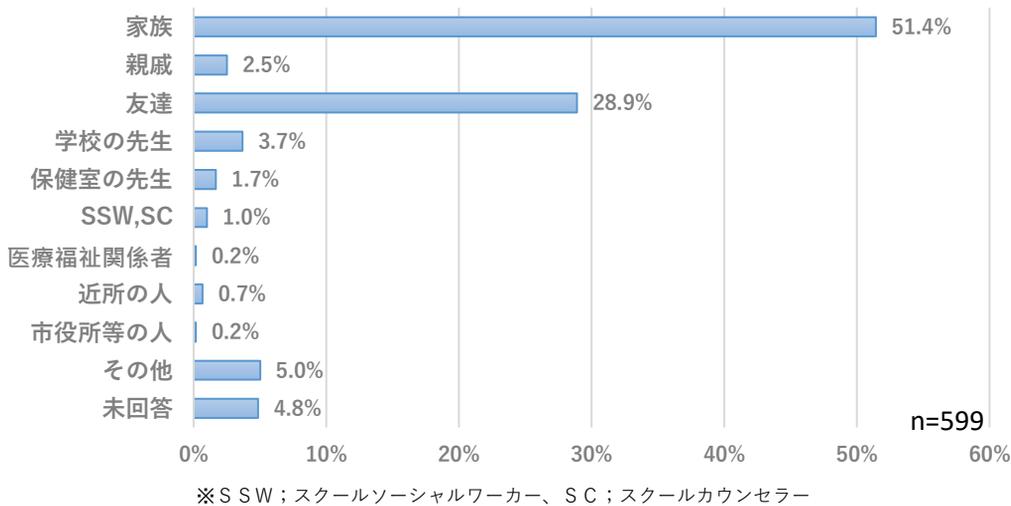


項目	回答数
いつもある	48
時々ある	172
あまりない	112
まったくない	182
わからない	68
未回答	17

n=599

▶お世話をしていて「いつもつらい」と感じている児童は8.0%、「時々つらい」と感じている児童は28.7%であった。その二つを合わせると約37%になり、お世話をしている児童の約3人に1人が「お世話のつらさ」を感じている。

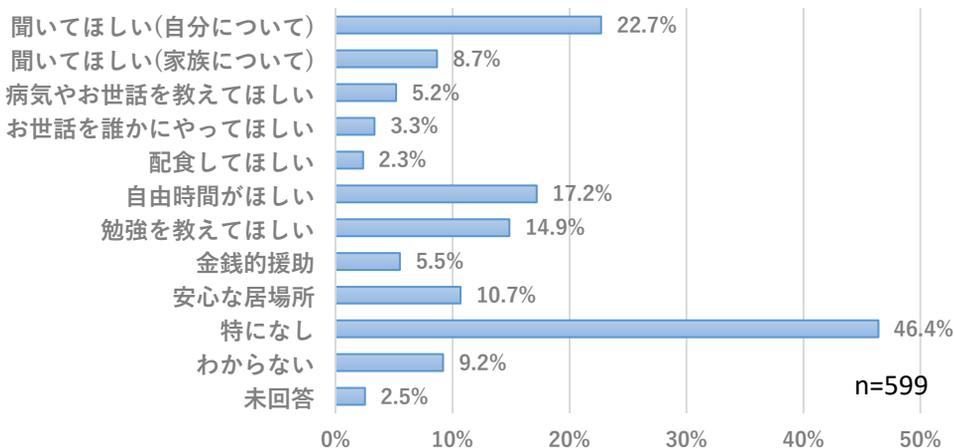
## 11 家族のことや、お世話のなやみを、だれに一番話したいと思いますか。（ひとつだけ）



項目	回答数
家族	308
親戚	15
友達	173
学校の先生	22
保健室の先生	10
SSW,SC	6
医療福祉関係者	1
近所の人	4
市役所等の人	1
その他	30
未回答	29

▶家族のことやお世話の悩みを聞いてほしい人は「家族」が51.4%、「友達」が28.9%で、その二つを併せると約80%になる。5人中4人が身近な人に相談したいと考えている。その他では「話したくない」「誰もいない」等の回答があった。

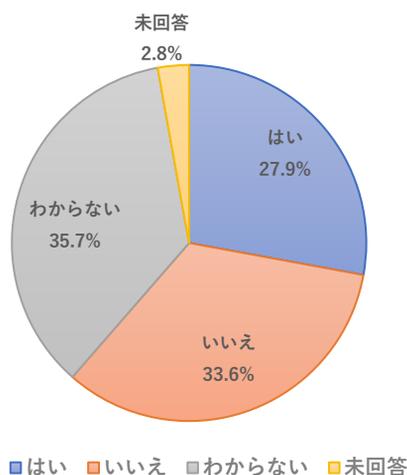
## 12 学校やまわりの大人にしてほしいことはありますか。（いくつでも）



項目	回答数
聞いてほしい(自分について)	136
聞いてほしい(家族について)	52
病気やお世話を教えてほしい	31
お世話を誰かにやってほしい	20
配食してほしい	14
自由時間がほしい	103
勉強を教えてほしい	89
金銭的援助	33
安心な居場所	64
特になし	278
わからない	55
未回答	15

▶約半数の児童が「特になし」と回答している反面、約4人に1人が「自分について（悩みを）聞いてほしい」、約5人に1人が「自由時間がほしい」と回答している。

## 13 あなたは、ヤングケアラーにあてはまるところがあると思いますか。（ひとつだけ）



項目	回答数
はい	167
いいえ	201
わからない	214
未回答	17

▶令和5年2月に福島県子ども未来局児童家庭課が公表した「ヤングケアラーの自覚」は11%であったことと比較し、いわき市では28%と2倍以上の割合になっている。

#### 1 調査結果とりまとめ

##### (1) こどもの健康状態について

- ・ 「心配ごとがなく、食欲あり、よく眠れて、疲れがとれている状態」を「よい」として分類したところ、4,486名中約7割のこどもが「よい」「まあよい」と回答しています。反面、「よくない」「あまりよくない」と回答したこどもは約6%いました。

##### (2) 「ヤングケアラー」という言葉の認知度について

- ・ 全回答者のうち44.4%のこどもが「ヤングケアラーという言葉を知ったことがある」と回答しています。その中には、当課（いわき市こどもみらい部こども家庭課）が配付した「ヤングケアラー啓発リーフレット」（※）を見た児童も含まれていると思われます。

（※）令和7年7月に市内小学校5年生～高校3年生までの全児童生徒に配付

##### (3) お世話をしている人が「いるか、いないか」について

- ・ 回答者4,486人のうち、自分が「お世話をしている人がいる」と回答したこどもは599人で該当者の割合は13.4%でした。この割合は、国の調査（令和2年、3年の全対象者に対する割合：5.7%）、福島県の調査（令和5年2月公表した割合：5.9%）よりかなり高くなっています。

##### (4) お世話をしている対象について（複数回答可）

- ・ この質問以降は、(3)の質問で「家族の中にお世話をしている人がいる」と回答した599名が回答しています。
- ・ 全回答者599名のうち、6割以上のこどもが「きょうだい」と回答しています。今回の調査では「兄・姉」（自分より年上）か「弟・妹」（自分より年下）か判然としない部分もありますが、家族構成を答える質問等から考えると「弟・妹」のお世話をしているこどもが多いようです。
- ・ 「きょうだい」の次に多かったのは「お母さん」で26.2%、次に「おばあさん」(14.9%)、「お父さん」(12.9%)、「おじいさん」(8.5%)の順に高い割合でした。

#### (5) お世話の内容について（複数回答可）

- ・ 「見守り」と回答したこどもが46.7%でした。自分より年下の「弟・妹」が転んだりあぶないことをしたりしていないか見守っているであろうと思われるこどもが調査数の約半数を占めています。
- ・ 次いで多いのは「家事」で42.7%でした。家事の内容は多岐にわたりますが、「食事の用意やあと片づけ」や「そうじ」「洗濯」もその中には含まれます。家庭の中でかなり重要な仕事を行っている（手伝っている）こどもも少なくはないということが言えそうです。
- ・ 決して多くはありませんが、「薬のケア」(14.0%)、「金銭管理」(5.5%)、「通訳」(3.0%)と回答したこどももいました。「お手伝い」との線引きが難しいところですが、これらのお世話を日常的に行っているとすれば、「ヤングケアラー」の疑いがあるかもしれません。

#### (6) お世話の頻度および時間について

- ・ お世話の頻度については、全回答者のうち、約半数のこどもが「毎日お世話をしている」と回答しています。次に多いのは「1週間に3日から5日お世話をしている」で、その二つを合わせた割合は約70%と高い水準になっています。
- ・ お世話をしている時間に関して、「4時間未満のこども」についてみると、平日は65.2%なのに対し、休日は48.9%と半分に達していません。逆に「4時間以上」のこどもは「4時間以上6時間未満」「6時間以上9時間未満」「9時間以上12時間未満」「12時間以上24時間未満」の各カテゴリーにおいて、「休日」の方が「平日」よりも多くなっています。
- ・ 「お世話をしている時間」の質問については、「平日」「休日」とも「未回答」（空白）の割合が約10%と、全質問項目を通して最も高い割合になりました。これは、この質問のみ回答が選択肢ではなく、直接書き込み式だったことと関係があるように思われます。

#### (7) お世話をしたの「負担感」について

- ・ お世話をしていて「つらいと感じるときがいつもある」と回答したこどもは約8.0%いました。「つらいと感じるときが時々ある」と答えた28.7%のこどもと合わせると、お世話をしているこどもの約3人に1人がつらさを感じながらお世話

をしていることがうかがわれます。

- ・ 「つらいと感じるときがまったくない」と「つらいと感じるときがあまりない」の二つのカテゴリーを合わせたこどもの割合は約 49%で、全回答者のほぼ半数に及んでいます。

#### (8) 家族のことやお世話についての相談相手について

- ・ 家族のことやお世話のことを一番に相談したい人は「家族」で 51.4%、次に回答数が多かったのは「友達」で 28.9%でした。その二つを併せると約 80%に上り、高い割合になっています。やはり自分の悩みや自分の置かれている状況については身近な存在に相談したいと考えているこどもが多いことがわかります。
- ・ 「学校の先生」は 3.7%、保健室の先生は 1.7%と、やや低い割合でした。多くのこどもたちの意識として、家庭生活と学校生活とを切り離して考えようとしていることがうかがわれます。
- ・ SSW（スクールソーシャルワーカー）、SC（スクールカウンセラー）、医療福祉関係者、市役所等の人の割合は、合わせても 1.2%と、さらに低い割合でした。福祉職や行政職が「こどもたちのために支援できることがある」ということを幅広く認知してもらうための啓発活動が大切になってきます。

#### (9) 学校や周りの大人にしてほしいこと（支援）について

- ・ 「特になし」と回答したこどもが 46.4%でした。「家族の中に自分がお世話をしている人」はいるけれど、現状を変える必要性をあまり感じていないこどもが全回答者のうち約半数に及んでいることがわかります。
- ・ 「自分のことについて話を聞いてほしい」と回答したこどもは 22.7%でした。全回答者のうち約 5 人中 1 名が自分の現在の状況や家族のお世話をしているその内容も含めて「誰かに相談したい」という気持ちをもっているようです。
- ・ 「自由時間がほしい」と回答したこどもは約 17.2%でした。家族のお世話で自分の自由時間が削られてしまっているこどもがいることがうかがえます。
- ・ 「安心できる居場所がほしい」と回答したこどもは約 10.7%でした。家の内外を問わず、自分が心から休める部屋（居場所）を求めている児童が、約 10 人に 1 名いることがわかります。

## (10) 「ヤングケアラー」という自覚について

- ・ 「自分はヤングケアラーにあてはまる場所がある」と回答したこどもは27.9%でした。この数字は令和5年2月に福島県こども未来局児童家庭課が公表した「ヤングケアラーと自覚しているこどもは11%いる（小学校5・6年生）」という数字と比較し、2倍以上の割合になっています。
- ・ 「自分はヤングケアラーにあてはまらない」と回答したこどもは33.6%と全回答者のうちの約3人に1人でした。

## 2 今後の取組について

### (1) 「ヤングケアラー」の認知度の向上について

- ・ ヤングケアラーに関する大きな課題の一つとして「ヤングケアラーは顕在化しにくい」ということがあり、その理由として「本人・家族の認識不足」、「相談の難しさ・ためらい」、「社会的な背景・環境」などが挙げられています。

今回の調査では、「“ヤングケアラー”という言葉聞いたことがある」と回答したこども（44.4%）が「聞いたことがない」と回答したこども（55.2%）を下回っており、「“ヤングケアラー”に関しての認知度を向上させる」という課題が改めて明らかになりました。

- ・ その課題解決のための一つの手立てとして「ヤングケアラー」に係る啓発リーフレットの作成・配付があります。今後もこの事業を継続して、市内すべての小学生、中学生、高校生に啓発リーフレットを届け、「“ヤングケアラー”という言葉聞いたことがある」から一歩進んで「“ヤングケアラー”とは何か少しでも理解している」という児童生徒が一人でも増えるよう取り組んでいきます。
- ・ また、いわき市役所出前講座の中の一つの講座を活用し、児童生徒のみならず、いわき市民の多くの方々に興味をもってもらえるように幅広く広報活動を行うことにより「ヤングケアラー」の認知度を上げるべく実践していきます。

### (2) ヤングケアラーの発見・相談支援体制の充実について

- ・ 潜在化しているヤングケアラーを発見する機会があるのは、こどもと触れ合う時間が長い教職員及びスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の教職員関係者です。また、家庭生活の中では医療及び福祉関係従事者も潜在化し

たヤングケアラーに気付く機会はあるでしょう。さらに、一般市民の方々にとっても身近にヤングケアラーは存在しているかもしれません。

それらの方々を対象としてヤングケアラーに関しての研修会（講演会）を開催することは、ヤングケアラーの発見及び知識・支援力の向上という観点から有効な手立てだと思われるので、今後も定期的を開催していきます。

- ・ アンケート調査の「家族のことや、お世話の悩みを、誰に一番話したいと思いますか」という設問に「市役所等の人」と回答したこどもは0.2%に過ぎませんでした。このことから、各地区保健福祉センター等の相談窓口は、こどもたちから、ほとんど認知されていないと言えそうです。
- ・ 前述の「ヤングケアラー啓発リーフレット」には、各児童が家で実行しているお手伝いや家族へのケアについて、困っていることや悩んでいることの「相談窓口」のお知らせや連絡先が記載してあります。リーフレットを配る各学校と連携を図って「行政には相談窓口がある」ということの周知徹底を図っていきます。
- ・ ヤングケアラーを発見したら、一つの機関が単独で支援するよりも複数の関係機関が連携して支援にあたる方が、より効果的な支援を行うことができます。例えば「ヤングケアラーを発見する」学校側と「ヤングケアラーを支援する」行政側が細やかに連携を図りながら支援にあたる、さらに、その支援の輪に医療・福祉機関等も加わることによって、ヤングケアラー、さらにはその家族に対してもより多くの支援を届けることが可能になります。
- ・ 以上のことから、ヤングケアラー支援のためには、学校関係、医療・福祉関係、行政関係など多機関で「一つのチーム」を作り、個々の案件に応じて適切に対応していくことが重要になります。

### (3) 今回の調査結果を受けて

- ・ アンケートの「家族の中に、あなたがお世話をしている人はいますか」という設問に「いる」と回答したこどもは、4,486人中599名いました。その599名の中で「あなたはヤングケアラーにあてはまる場所があると思いますか」という設問に「はい」と回答したこどもは167名いました。
- ・ その167名のうち、「健康状態」、「お世話をしている時間」、「お世話の負担感」の3つの条件を判断材料として絞り込んだところ、「ヤングケアラーの疑いがあるこども」を124名抽出しました。

- ・ 124名に関しては、そのこどもが在籍している各学校を訪問し、第二次調査を依頼しました。（タブレット調査は回答を選ぶ際に意図しないものを選択する可能性もあることから、第二次調査は「対面での聞き取り調査」を依頼しました。）
- ・ 第二次調査の結果から「ヤングケアラーの疑い」がより高まったこどもについては、必要に応じて、在籍する学校および該当地区の保健福祉センター等と連絡を取り合いながら、「こどもがこどもらしい日常生活を送ることができる」よう、実際的な支援につなげていく予定です。



いわき市こどもみらい部

こども家庭課家庭相談係

Tel. 0246-27-8596 Fax. 0246-27-8564

E-mail. [kodomokatei@city.iwaki.lg.jp](mailto:kodomokatei@city.iwaki.lg.jp)